



国交省中部へ **名鉄高架事業** 意見交換

高架事業は防災の視点も

8月29日、名鉄高架事業に関して国土交通省の中部整備局に、提言・意見交換に出かけました。立体化促進期成同盟会の企画で、当日は柴橋市長、地元議員の大野一生市議、地元自治会連合会会長などの参加でした。松原のりかず は、都市活性化対策特別委員会の委員長の立場で参加させて頂きました。柴橋市長、大野市議などのご発言後「ほかに何かありますか？」と司会者に聞かれ「ふっ」と発言した事。

「先日、西日本の災害時に出張が重なりましたが、在来線は不通（寸断され）でしたが、新幹線は九州まで行けました。高架のおかげです。災害時の交通渋滞回避の視点、防災の視点も見てほしい。まして、踏切があり渋滞しては車（42万人の救援物資）がスムーズに入って来れない。」と発言。経済視点での発言ではなかったが・・・。

勢田国交省中部地方整備局長はメモしながら「防災の視点は始めて聞いた。今まで無かった。」と発言されました。

松原のりかず は、岐阜市の半数が水没した9・12水害を経験。自宅に帰れず、役所の机の上で寝ていた。激甚災害指定され自衛隊の指揮所が本庁舎7階に設置されました。以来、これ以上の水害は経験ありませんが、災害時の視点は大切と思います。

エレベータ見直しには2千万円以上の意味が

平成28年度の不用額合計は約83億2200万円でした。ここ数年同じような決算と。新庁舎建設では、合併特例債では地方交付税で年2億6千万円見て貰えるとの説明。「それだけ」との感覚があるが、これも期限が延びたのでは？ 工期を心配しなくても感じる。

「エレベーターの見直し」には2千万円安くなるが、設計変更すると金が掛かるので「しない」とされるらしい。「見直し」が、市民にとって「財政的視点」ではなく「政治的視点」である点を大切にしてほしい。「前市長の束縛からの解放・独立」は柴橋市長にとって大きなプラスに働く。階数を削減出来ないで、無駄な空間建設に税金を費やすより、設計変更料を工面した方が市民には理解しやすいのでは。突貫工事は不良品の原因である事は、メディアコスモスを見れば分かる。今後まだまだ、設計変更は発生すると思えるのだが。柴橋市長の任期中には完成する。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

名鉄名古屋本線・各務原線鉄道立体化促進期成同盟会 提言・意見交換会

平成30年8月29日(水) 15:55~16:15
国土交通省中部地方整備局



意見を述べる柴橋正直岐阜市長(写真中央) 松原のりかず特別委員長(市長から右へ2人目)

平和憲法を守る会 2018年・平和集会

記念講演 市民生活と守る会の運動

9月2日、ワークプラザ岐阜で「平和憲法を守る会」の2018年の平和集会が開催されました。本年は、新たに「守る会」の代表に就任されました別処雅樹さんに「市民生活と守る会の運動」と題して、別処さんが請求人となられた「新電力を入れた電力入札」を求める事に繋がった「監査請求」を題材にして、その経過と運動の意義について講演を頂きました。

生活に身近な課題を通じて、「憲法を暮らしに活かす」「平和な生活を実現する」をお話し頂きました。電力の入札により既に、8140万円税金節約の成果が確認されています。市民生活の身近な課題から、行政への関心を持って頂き、小さくても成果を積み重ね、大きな「守る会の運動」につなげて行きたいものです。



松原のりかず
☎058-253-2500